

## 【講義メモ】担当:平野正喜(ひらのまさき)

この講座ではプロジェクトに講義メモを書きながら進めます。この文字サイズの読める席にお座りください。

18:15～20:45(途中休憩有)。受講者数は13人です。

この講義メモは講義終了と同時に下記のサイトにPDFで掲載し、ダウンロード可能にします。ご利用ください。次回予告も掲載します。質問やコメントが送信可能です。

<https://tkuip.rundog.org>

前回の1問: SWOT分析で脅威は? ア S イ W ウ オ エ T

正解はエ(p.56)

p.63 2-2-3 價格設定の手法

- ・スキミング(上澄み吸収=高価格でも購入する層)プライシング(価格戦略)、発売時の価格を高くする
- ・ペネットレーション(浸透狙い=シェア獲得を目指す)プライシング、発売時の価格を安くする
- ・ダイナミック(動的)プライシング、状況に応じて価格を変動させる。ITやAIの活用がポイント。

p.64 2-3-1 ビジネス戦略立案と評価のための情報分析手法

・BSC=バランススコアカード:経営資産や戦略を4視点で総合的に評価する手法  
①財務(過去) ②顧客(現在) ③業務プロセス(現在) ④学習と成長(未来)

・バリュー(価値)エンジニアリング(工学、分析)、価格と機能とコストの関係分析

・CSF=クリティカル(重要)サクセス(成功)ファクター(要因)=コアコンピタンス

・KGI=キー(鍵となる)ゴール(目標)インジケータ(指標):目標達成度を測るための指標。

例:売上高〇億円、出店数〇店

・KPI=キー(鍵となる)パフォーマンス(業績・実績)インジケータ(指標):目標達成へのプロセスを示すための指標。例:顧客数〇%アップ

p.65 2-4-1 経営管理システム

・ERP=エンタープライズ(企業・経営)リソース(資源)プランニング(計画):元は経営資源の有効活用のための理論。現在は各種の業務システムを統合して効率を上げる考え方

・ERPパッケージ:各種の業務システムを統合した統合基幹業務ソフトウェア

・バリュー(価値)チェーン(連鎖)マネジメント(管理):事業活動を付加価値を与えることの積み重ねとして分析し、最適化すること。事業部や企業をまたがった考え方。

・SCM=サプライ(供給)チェーン(連鎖)マネジメント(管理):企業をまたがった製品や材料の需要と供給のつながりを効率化するための管理。

・CRM=カスタマ(顧客)リレーションシップ(関係)マネジメント(管理):顧客情報を全社で共有し業務に有効活用するための管理。

※特に、顧客との接触情報を管理するコンタクト管理が重視されている

・CTI=コンピュータ・テレフォニ(電話やFAXやSMS)インテグレーション、自動電話発信&応答、自動FAX・SMS送信システム。着信情報のIT化、など。

p.66 2-5-1 技術開発戦略

・MOT=マネジメント(経営)オブ・テクノロジ(技術)、技術開発を事業・主体とする経営。

・【補足】シナリオライティング:技術ロードマップ(技術的な将来像に向けた年表)を脚本にすること。将来像の検討にもちいる

・【補足】デルファイ法:未来予測手法。複数の専門家への質疑応答の結果をフィードバック

してさらに応答を貰うことを繰り返すことで、意見の集約を目指す手法。

・【補足】確率分布：確率的に得られる値（例：くじの賞金）と、その確率を分析してその事象の優劣や分布状況を推定すること。

※ 確率的に得られる値×確率の総和を期待値という。例：確率 0.1 で 1,000 円当たり、0.01 で 5,000 円当たるくじの期待値は  $0.1 \times 1000 + 0.01 \times 5000 = 150$ 。よって、このくじが1回 150 円以下なら、必ずもうかる。

p.67 2-6-1 代表的なビジネスシステム

・【補足】トレーサビリティ：追跡可能性。ロジスティックス（物流）においては、商品の生産者から消費者までの経路を明示できること。

・RFID=ラジオフレクエンシ（短距離電波）アイデンティフィケーション（識別）。無電源で特定の電波に反応できる部品で電子タグとして商品管理（棚卸の効率化など）に用いられる。

・POS=ポイント・オブ・セールス（販売時点）。レジなどに販売情報を入力した時点で、ネットワーク経由で全社的に共有できる仕組み。

・GPS=グローバル（地球的）ポジショニング（測位、位置情報）システム、複数の人工衛星が発する電波を受信して自己の位置を計測する仕組み。

※ GIS=ジオグラフィック（地理）インフォメーション（情報）システム、GPSと連動して位置情報から地図情報を得られるシステム

・EDI=エレクトリック（電子）データ・インターチェンジ（交換）、企業をまたがる情報交換を紙ではなくデータとネットワークで行えるように規格を統一すること

・EFT=エレクトリック（電子）ファンド（資金）トランスマネー（移動）、電子決済のこと

・【補足】暗号資産：仮想通貨といわれていたインターネット上で決済できる電子マネー

・【補足】ブロックチェーン：暗号資産の取引を分散管理することで有効性を守る仕組み

※ 偽造防止の仕組みにもなるので著作物保護にも活用

・【補足】デビッドカード：プリペイド（前払い）、ポストペイ（後払い＝クレジットカード）の中間的存在で、ほぼ即時決済なので、利便性と安全性がある。

・ETC=エレクトリック（電子）トール（料金、料金所）コレクション（収受）、主に高速道路の料金所で活用されている高速決済。

・【補足】クラウドファンディングのクラウドは雲のことだが、インターネットを指す。

・CDN=コンテンツ（文章、画像、音楽、動画など）デリバリ（配信）ネットワーク、Webコンテンツの高速配信に特化したサービス。

・CPS=サイバー（ネット上の仮想空間）フィジカル（人間の現実空間）システム、現実空間にあるデータを仮想空間で解析することで新たな価値を生む仕組み

p.69 2-6-2 AI（人工知能）

・【補足】人工知能：学習能力のあるシステムの総称。

・【補足】機械学習：単なる計算や検索ではなく、データから規則性や概念を見つけ出すこと。これを判断に用いる。（例：大量の画像からリンゴの画像を判別）

・【補足】自然言語処理：人間の話し言葉、書き言葉を解析して意味を理解すること

・【補足】人間中心のAI社会原則：①人間の尊厳の尊重②多様性の尊重③持続性のある社会の創出

・Society5.0：第5次産業革命のことで、AIを活用した未来の産業・社会のコンセプト。

・【補足】生成AI：文章、プログラム、2D/3DイメージなどをAIに生成させること。

※プロンプト：生成AIにあたえる指示。指示の仕方によって結果が異なるので、より効率の

良い指示を与える手法がプロンプトエンジニアリング。

- ・バイアス：偏りのこと。AIに与えるデータにバイアスがあると、偏った学習が行われ、正しい結果が得られなくなる。
- ・XAI=エクスプレイナブル(説明できる)AI、どのような推論方式、モデル、データを用いて、何を根拠として結論に至ったかを明示できるようなAI。バイアスの発生の防止になる。
- ・HITL=ヒューマン(人間)イン・ザ・ループ(機械学習の繰返しの中への介入)、バイアスの発生の防止のための手法。

p.70 2-6-3 その他の分野のシステム

- ・【補足】マイナポータル：マイナンバーを用いる行政オンラインサービス(そのホームページ)。電子申請・届出システムのインターフェース。

p.71 2-7-1 エンジニアリングシステム

- ・CAD=コンピュータ・エイデッド(支援)デザイン(設計)、設計支援システム
- ・CAM=コンピュータ・エイデッド(支援)マニュファクチャリング(製造)、CADで作成した設計情報を用いて製造を行う自動化システム

※ 上位概念にCIM=コンピュータ・インテグレーテッド(統合)マニュファクチャリング(製造)、FA=ファクトリ(工場)オートメーション(自動化)がある

- ・コンカレント(並行)エンジニアリング(生産)：複数工程の同時実行を可能にするシステム
- ・MRP=マテリアル(資材)リクワイアメント(所要量)プランニング(計画)、生産計画と資材の在庫状況から、生産に必要な資材の調達(発注)計画を作成すること。
- ・JIT=ジャスト・イン・タイム(必要時ちょうどに)、生産時に必要な資材が届くようにする仕組み。中間在庫(資材の在庫)を削減することで生産効率を上げる。一例として「かんばん方式」がある。

p.72 2-8-1 電子商取引

- ・EC=エレクトリック(電子)コマース(商取引)、コンピュータとネットワークを用いた商取引の総称

・e-ビジネス：インターネットを用いたEC

・BtoB=ビジネス(企業)トゥ・ビジネス(企業)、企業間EC

・【補足】電子マーケットプレイス:BtoBの例。取引市場のEC版

・BtoC=ビジネス(企業)トゥ・コンシューマ(消費者)、ネットショッピング

・【補足】オンラインモール：電子商店街。複数のネットショップを見かけ上、1サイトにしたもの。

・CtoC=コンシューマ(消費者)トゥ・コンシューマ(消費者)、消費者間EC

・【補足】電子オークション：誰でも出品できるネットショップで、CtoCが可能。

・BtoE=ビジネス(企業)トゥ・エンプロイ(従業員)、社員サービス用ECで、社内販売や企業リソースの提供などを行うサイト

・GtoB=ガバメント(行政)トゥ・ビジネス(企業)、政府自治体と企業の間のECで、主に電子入札などに用いる

・GtoC=ガバメント(行政)トゥ・シチズン(住民)、行政サービス用のECで、マイナポータルなどを含む

・フィンテック=フィナンシャル(金融)テクノロジ、金融サービスのEC化の総称

p.73 2-8-2 電子商取引の種類と留意点

- ・エクスクローサービス=主に電子オークションのトラブル防止のための有料サービス。仲介

になって商品と代金の受け渡しを保証する。

・逆オークション：購入側が金額を上げて競うオークションとは逆に、販売側が金額を下げて競うオークションのこと。よって、電子入札は逆オークションの例。

・ロングテール：品目ごとの売上をグラフにすると、横に長くなる（長い尾に見える）こと。ネットショップにおいて多品目を扱うことで小さな収益を積み重ねることができることを指す。

・eKYC=エレクトロニック（電子）ノウ・ユア・カスタマ（顧客本人確認）

・【補足】ECと補償：ECの最中のネットトラブルによる機会損失は補償されない

※なお、ECの決済は注文請けメールを発注者が受け取った時点で成立

p.74 2-9-1 IoTを利用したシステム

・IoT=インターネット・オブ・シングス（物）、コンピュータ、通信機器以外の機器をインターネットに直結すること

・情報家電：インターネット接続機能を持つ家電。例：TV、電子レンジ

・MtoM：マシン（機械）トゥ・マシン（機械）：人間やコンピュータが介在せずに機械同士が情報交換すること。自動制御や自律操作を可能にする 例：バスと停留所の到着表示

・コネクテッドカー：元はネットワーク接続機能を持つ車。車のIoT。

p.75 2-9-2 組込みシステム

・【補足】組込みシステム：ハードウェアとソフトウェアが一体化したもの。主に、小型の専用システムで制御用のファームウェアが主体。マイコンともいう。

※ PL法の対象になる（通常のソフトウェアは非対象）

・ロボティクス：産業ロボットの制御工学などの総称

・センシング技術：センサの利用技術。

今日の1問：電子マーケットプレースが該当するのは？

ア BtoB イ BtoC ウ CtoC エ BtoE

次回予告：第3章「システム戦略」から